喬旦加布
平成 25 年度「卓越した大学院拠点形成支援補助金」事業　研究成果レポート

１．事業実施の目的：博士論文執筆ための予備フィールド調査
２．実施場所：中国･青海省黄南蔵族自治州同仁県
３．実施期日：平成 26 年 1 月 28 日（火）から　2 月 24 日（　28 日間　）
４．成果報告
●事業の概要
　このたび、私は「卓越した大学院拠点形成支援補助金」事業の支援を受けて約 4 週間にわたって中国青海省黄南蔵族自治州同仁県ワォッコル村におけるフッゴン祭と旧正月の仏教行事を中心にフィールド調査を行った。
　当初は 2014 年 1 月 28 日から 2 月 5 日にかけてワォッコル村のフッゴン祭を中心にフィールド調査を行う予定だったが、ワォッコル村の引退した年寄りのハワ（シャーマン）と現役のハワのトラブルにより今年度のフッゴン祭は中止となった。そのため、この期間にワォッコル村のフッゴン祭に関する長老への聞き取り調査を行った。特にフッゴン祭が中止になった理由などについて調べた。
　調査地のワォッコル村は歴史的にチベット族・トゥー（土）族・漢族・モンゴル族などが接触・雑居する地域であった。調査地の人々はみずからチベット人というアイデンティティーが強いが、日常生活の中では中世モンゴル語に由来するといわれるトゥー語を話し、中国の民族識別では「土族」とされた。チベット仏教を中心に信仰するが、仏教が伝来する前のポン教やアニミズム的要素もみられ、仏教行事のほかにルロ祭やフッゴン祭など村の土着神を祭る伝統的祭りが残っている。
　フッゴン祭は当村にとって夏のルロ祭と非常に強い関連を持つ村の年末行事で、ダルジャ三兄弟の山神を迎えまつるものである。全村の村人はハワの指導の下、当年に指定された一軒の民家に集まる。三兄弟の神像を中心にチベット蒸しパンや果物、穀物、酒類など大量の供物を供える。村の 4 人の踊り手が鍋すみを顔につけ、子羊の皮でできた着物を内外逆に着て悪霊や妖怪に扮装して部屋の東南西北の各角に座り、ハワがそれぞれの方向に向けて儀礼を行う。一連の行事を通して村内の悪疫悪霊を追い払い、風雨順調や村の平安、農業の豊作を祈願するのである。
　フッゴン祭はルロ祭と同じく中国の文化大革命の時期に禁止されたが、1980 年代以降、徐々に復興してきた。フッゴン祭の場合はルロ祭と異なり、ハワによる神々への読経や儀礼が占める割合が多い。このため、現役の若いハワが秘儀を含めてすべての儀礼を未だに身に付けておらず、引退したハワに多くを依存せざるえない。これは元来、先代のハワが若いハワに教えるべきものであるが、年寄りのハワは、村人と若いハワに対して、その秘儀すべてを伝授する報酬として 20 万人民元（320 万円相当）の報償を 2〜3 年前から要求していた。この要求はまさに市場経済の浸透と金銭第一主義の影響であろう。
このためフッゴン祭は一昨年まで中断され、昨年は村民の手でハワの行なう秘儀などを除いてフッゴン祭を復活したが、今年また村長と長老会のメンバー、若いハワなどがあらためて何度も年寄りのハワにその秘儀の継承に関して交渉したにもかかわらず、ハワは秘儀の伝授を承知せず、中断することとなったのである。
　2014 年 2 月 6 日から 24 日にかけては、旧正月に行う僧院の大タンカ（仏画）の開帳や僧院のチャム祭（仮面舞踊）などの仏教行事について参与観察を行った。
　チベット自治区とその周辺地域ではチベット暦に基づいて正月を迎えるが、アムド地方では中国の

ほかの地域と同じく漢族の「農暦（旧暦）」に従って正月を迎える。夏のルロ祭と年末の悪疫悪霊を追い払うフッゴン祭は山神を中心にまつる行事であるとすれば、正月は仏教の守護神を中心にまつって功徳を積む行事であるといえる。

今回は、主に正月の 15 日間、村内ではロサル（元日）の僧院での初もうでをはじめとし、僧院の大タンカの開帳とチャム祭、モンラム（法要）など仏教の行事と、女性の成人式・結婚式・年寄りの祝祭などの通過儀礼を観察し、映像や写真による記録を行った。

チベット仏教のチャム祭や大タンカの開帳などの行事は、チベット自治区などのほかにチベット文化圏のラダック及びネパール、ブータン、モンゴルなどのチベット仏教の僧院でも行われている。

その後、青海省黄南州州誌編纂室と文化局などを訪れ、黄南州と同仁県に関する地方史の学術資料の調査を行った。1961 年に出版された『青海歴史紀要』（青海人民出版社）と近年出版された *Dosmhd rebkong lokyi chinmo ngo mshr kdm kyi bgnmzod* などの文献の複写や収集ができた。

更に、青海民族大学蔵学研究院を訪れ、同大学のポン教と仏教、山神崇拝関係の教授らと議論を行い、研究内容についてアドバイスを受けた。

●本事業の実施によって得られた成果

今回、総研大の「卓越した大学院拠点形成支援補助金」事業の支援を受け、冬のフッゴン祭とチベットアムド地域のロサル（旧正月）に関するフィールド調査を経て、今後の博士論文を書くための予備調査と資料の蓄積ができた。特にワォッコル村の土着神信仰とロサルのチベット仏教の行事について新しく貴重な資料を集めることができた。今後これらの資料を整理し、日本チベット学会や国際若手チベット学会などの研究会で研究発表を行いたい。更にこれらの資料を今後の博士論文に生かしたい。